



建設当時は瓦屋根だったが鉄板屋根に改装されていた。その後、屋根の一部が抜け落ちるなど老朽化が進み、平成7年3月の突風で一部が倒壊。同8年に約2万枚の瓦屋根の復元工事が実施された。

旧右近倉庫
(小樽市祝津3-240)
明治27年建築。木骨石造1階建。983㎡。敦賀の北前船主、右近権左衛門によって建造。妻壁に「//」（一膳箸）の印がある。正面は左右非対称。中央と左側にアーチ付開口部を持つ。越屋根、小屋組にはクイーンポストラス（対束小屋組）が用いられている。南側に旧広海倉庫、旧増田倉庫が隣接し、北陸の北前船主がつくった倉庫が3棟連なる。平成6年、小樽市登録歴史的建造物となる。同7年3月、突風で壁面の軟石と屋根の一部が倒壊。同年10月、競売にかけられ、翌8年1月、北一硝子が購入。同年6月、壁面の軟石の修復と屋根瓦の復元工事を実施。同年7月、小樽市指定歴史的建造物に指定。



正面(海側)の扉。



倉庫内部。補修時に木骨が追加された。



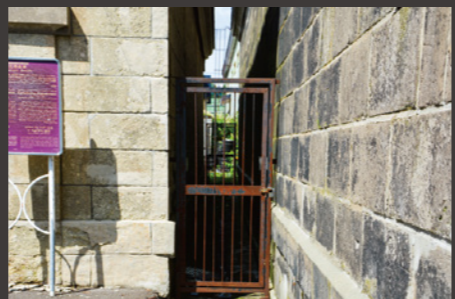
右近家のしるし。「一膳箸」。



背面(山側)にも「一膳箸」のしるしがある。



山側からみた3棟の倉庫。北側(左手)から、旧右近倉庫、旧広海倉庫、旧増田倉庫。



南側の旧広海倉庫との間に設置された扉。



右近家の家紋「茶の実」。背面(山側)扉上のアーチ上部にある。



背面(山側)扉のアーチ状の装飾。

北運河にのこる福井の北前船主がつくった倉庫

小樽運河の北部、「北運河」と呼ばれるエリアには様々な歴史的建造物が残っているが、北陸の北前船主がつくった倉庫が現在も3棟並んでいるのは全国でもここだけで、大変貴重な歴史遺産といえる。平成30(2018)年5月に3棟全てが「北前船」日本遺産の構成文化財に指定された。その最も北側にあるのが旧右近倉庫である。

右近権左衛門家は、北前船主集落として知られる福井県南越前町河野出身で、小樽の有幌地区の旧中村倉庫をつくった中村家と同郷である。北前船主としての右近家のルーツは江戸時代前期に遡り、延宝8(1680)年、河野浦の金相寺三代目住職・漸祐が、四代目専祐の弟を寺の養女と縁組みさせ、田地山林とともに船1隻を与えて分家させたことに始まる。

18世紀前半には、近江商人に雇われ荷所船で蝦夷地(北海道)との海運業に携わっていたが、宝暦から天明期頃に自ら商品を仕入れて各地で販売する買い積み経営を行い、北前船主として自立していった。右近家が日本海有数の大船主に飛躍したのは、幕末から明治期の北前船最盛期に活躍した九代目権左衛門(1816-1888)の頃である。

その息子、吉太郎(十代目権左衛門、1852-1916)も船頭として八幡丸に乗り込んで経験を積み、明治初期には急激に発展しつつあった小樽に滞在し、右近家

の蝦夷地での商業取引の采配をふるった。明治12(1879)年には有幌に土地を購入して倉庫と住宅を建設。倉庫業、海陸物産売買業を始めた。この倉庫は同27年に建設されている。

右近家は、小樽で取引していた有幌の甲崎金次郎、港町の田中武左衛門らに、瀬戸内海の砂糖、塩、素麺、敦賀のお茶、筵や縄などの生活物資のほか、大阪や堺で積み込んだ麦酒、ブランドー、ブドウ酒などを販売していた。最近、同22年に右近家の永寶丸が「コーヒータン」を運んでいた帳簿が発見されるなど、右近家の北前船は西洋文化を各地にもたらしていたことが分かってきた。

この倉庫は、戦後、倉庫会社、建設業者などを経て、平成4年に札幌の不動産会社の所有となり、バブル期にはビール園などへの再利用が検討されたが、不況後は放置されていた。同6年3月、突風で壁面の軟石や屋根の一部が倒壊し、保存処置を求める市と所有者が費用をめぐって対立した。その後、同7年10月、競売にかけられ、翌年1月、北一硝子が購入し、壁面の軟石の修復、屋根瓦の復元工事をを行った。20数年前には取り壊される寸前だったこの倉庫は見事に再生し、北前船主の活躍と小樽の繁栄をいまに伝えている。

撮影：落合亮(小樽商科大学写真部)
文章：高野宏康(小樽商科大学学術研究員)

【参考文獻】「北前船主の館 右近家」(1995年)、「揺れる北運河倉庫群 旧右近の傷み 激化」(北海道新聞) (1996年5月10日付)、「小樽の歴史的建造物 旧右近倉庫 北一硝子が購入」(北海道新聞) (2006年1月9日付)、「北一硝子が買収した「旧右近倉庫」 本格保存へ補修スタート」(北海道新聞) (1996年6月20日付)、「越前田南家部河野浦、右近権左衛門家文書目録」(1996年)、「右近倉庫」(語り継がれる町おたる 総集編6、1997年)、「北前船「コーヒータン」運搬」(日刊県民福井) (2016年5月4日付)、「珈琲糖仕切」(堀山人の珈琲湯考、ブログ、2016年6月1日)。

【謝辞】浅原隆蔵さん(株式会社北一硝子代表取締役社長)、右近恵さん(野北前船研究会会長)にご協力いただきました。感謝申し上げます。